

ユニツイン／ユネスコチェア事業について

知の交流と共有を通じて、高等教育機関及び研究機関の能力向上を目的とする、ユネスコのプログラム。高等教育機関の国際的な連携・協働を促進することにより、人的・物的資源のシンクタンクとして、また教育・研究機関、地域コミュニティ、政策立案者間の橋渡しの存在としての役割を担うことを目指す。1992年にユネスコで創設。

1. 事業形態

① ユニツイン(UNITWIN: University Twinning、大学間ネットワーク)

:合計 **43** ネットワーク(2022年12月時点)

- 複数国に所在する複数の大学または高等教育／研究機関(3－10機関)から成り、ネットワーク全体として、ユネスコと協定を締結
- 同じテーマに取り組む既存の複数のユネスコチェアがユニツインとして申請すること、また、既存の大学間協定のネットワークを拡充してユニツインとして申請することも可能
- 4年ごとに更新(※2018年1月以前のガイドラインでは、協定期間は6年)

② ユネスコチェア(UNESCO Chairs、ユネスコ講座)

:合計 **914** 講座(2022年12月時点)

- チェアホルダー(責任者)、講師、研究者、学者から成る新たな教育・研究ユニットとして、大学または他の高等教育機関に設置
- 大学の部局内に新たに設置、または既存のプログラムの拡充により設置が可能
- 大学の学長とユネスコ事務局長の間での覚書署名により発効
- 4年ごとに更新

2. 対象機関

- 大学又は高等教育・研究機関
- 高等教育・研究分野で活動している NGO[※]
- その他学術研究機関[※]

※ ただし、ユニツイン又はユネスコチェアを設置できるのは、大学又はその他の高等教育機関に限る。

3. 新規申請

日本ユネスコ国内委員会の推薦(1か国につき、毎年2件まで)を得た上で、各研究機関等がユネスコに申請。主なスケジュールは以下の通り。

2月末まで	日本ユネスコ国内委員会への申請書類提出
4月末まで	申請機関がユネスコに申請
5～7月	ユネスコ本部において審査
8～9月	各機関へ審査結果の通知
10～12月	採択機関とユネスコが協定書を締結

4. プロジェクトの実施

- 4年間の実施報告をユネスコ本部に提出
- ユネスコのロゴの入ったユニツイン／ユネスコチェアのロゴを使用可能
- ユネスコからの財政支援は行われない
- 協定終了日の6か月前までに、ユネスコへ協定更新手続きの申請が必要

5. 我が国におけるユニツイン／ユネスコチェア事業

(1) ユニツイン

- ① 斜面災害・水災害に関する研究・教育ネットワーク(京都大学)
- ② 教育開発のためのアフリカ・アジア大学間ネットワーク(広島大学)
- ③ 技学 SDG ネットワーク(長岡技術科学大学)

(2) ユネスコチェア

- ① 環境・社会基盤開発工学ユネスコ講座 (埼玉大学工学部)
- ② ユネスコチェア国際研修「文化遺産と危機管理」
(立命館大学歴史都市防災研究所)
- ③ 持続可能な開発のための教育(ESD)と研究に関するユネスコ講座
(岡山大学大学院環境生命科学研究科)
- ④ ジェンダーや脆弱性に配慮した減災対策 (神戸大学)
- ⑤ 水・エネルギー・災害に関する京都大学ユネスコチェア(WENDI) (京都大学)
- ⑥ 地球環境災害軽減ユネスコチェア (島根大学)
- ⑦ 技学 SDG インスティテュート (長岡技術科学大学)
- ⑧ グローバル時代の健康と教育 (大阪大学)
- ⑨ 平和、社会正義、グローバル・シチズンシップのための教育における UNESCO
Chair (九州大学)
- ⑩ 生物圏保存地域を活用した持続可能な社会のための教育ユネスコチェア
(横浜国立大学)
- ⑪ 持続可能な開発のための世代間学習促進プログラム (金沢大学)